

図 6 - 3(E) 自傷：大島の分類

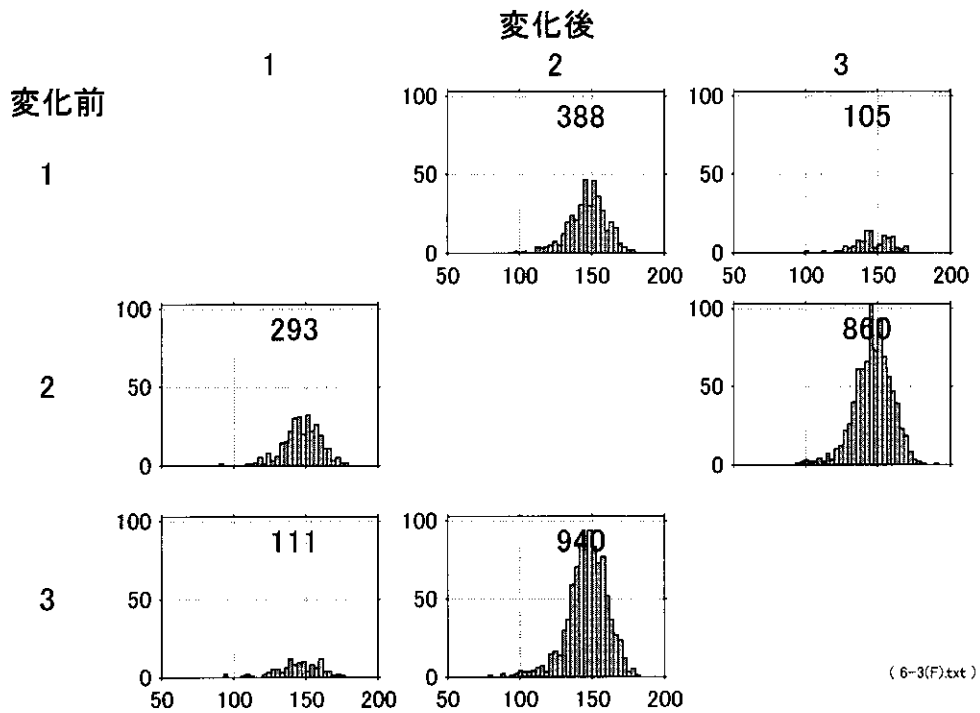


図 6 - 3(F) 自傷：身長 (cm)

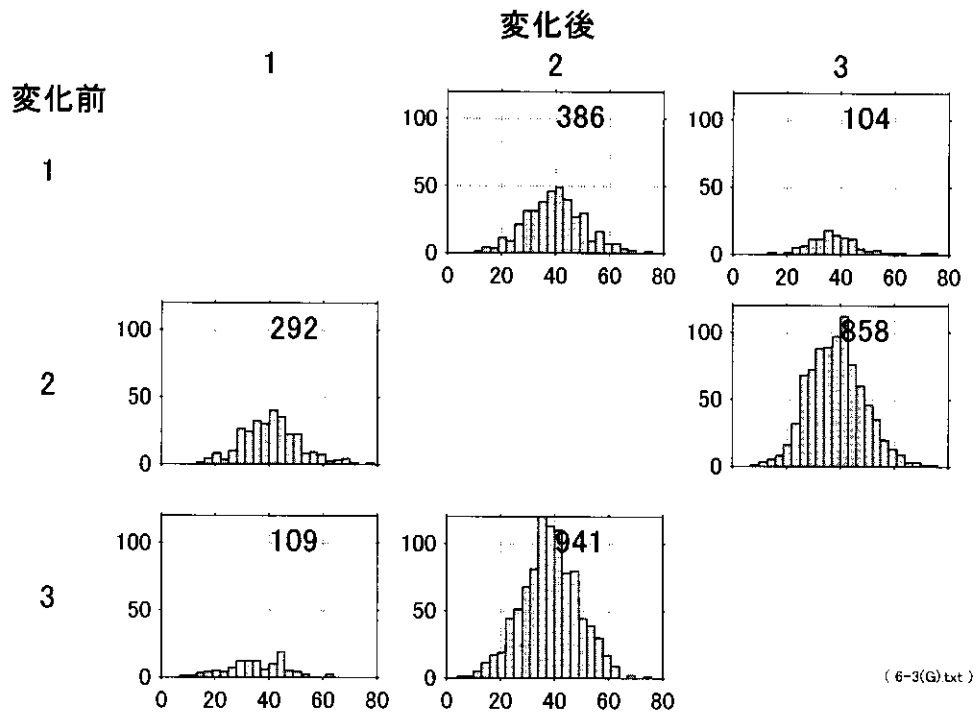


図 6 - 3(G) 自傷：体重 (kg)

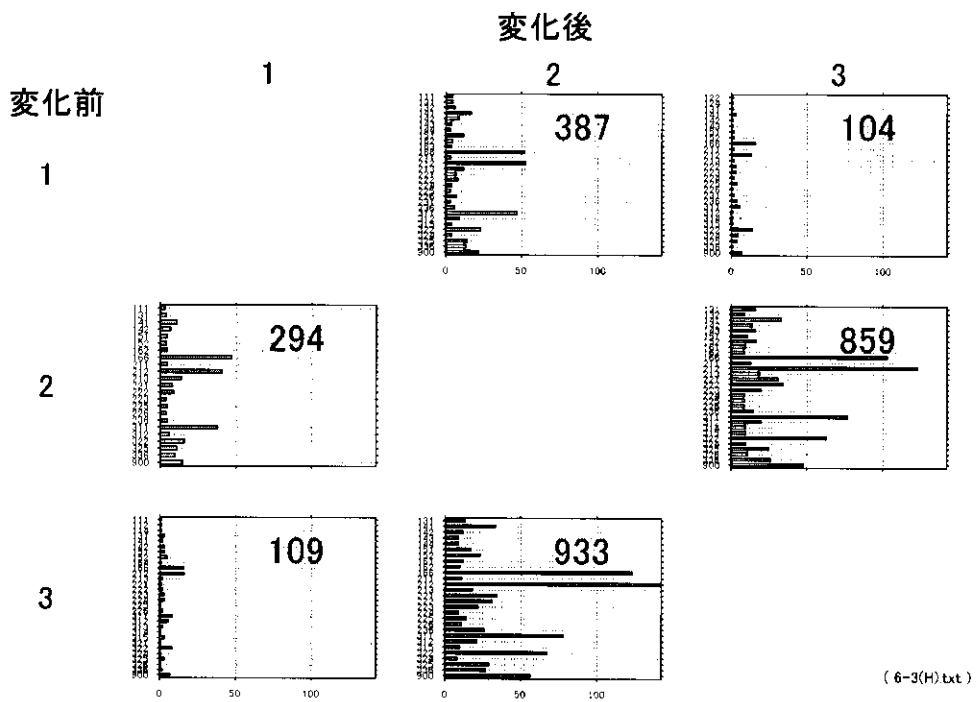


図 6 - 3(H) 自傷：主要病因

6. 4. 首振り・頭叩きなどの常同行動

■ 改訂版 ■

1	日常的にある
2	時々ある
3	なし

<図 6-4 (A)～(H)>

全体：対象症例数 8586 名の中で不変群 6382 名を除いた，2204 名（25.7%）に変化がみられた。改善は 1694 回，増悪は 1698 回発生し，改善と増悪は同等であった（改善/増悪：-0.2%）。また，改善と増悪の和（3392 回）を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 1.54 回発生したということになる。改善が最も多くみられた水準は，2 群→3 群（911 回，改善回数の 53.8%）であった。一方，増悪に関しては，3 群→2 群（994 回，増悪回数の 58.5%）の変化が最も多くみられた。

性別：男性では何らかの変化が 1839 回みられ，改善が 914 回（49.7%），増悪 925 回（50.3%）であった。女性では何らかの変化が 1553 回みられ，改善が 780 回（50.2%），増悪 773 回（49.8%）であった。男女間で顕著な差は認めていない。

改善群と増悪群について，変化の生じた年度，年齢，入所期間，大島の分類，身長，体重との関係を見ると，両者に大きな差を認めていない。

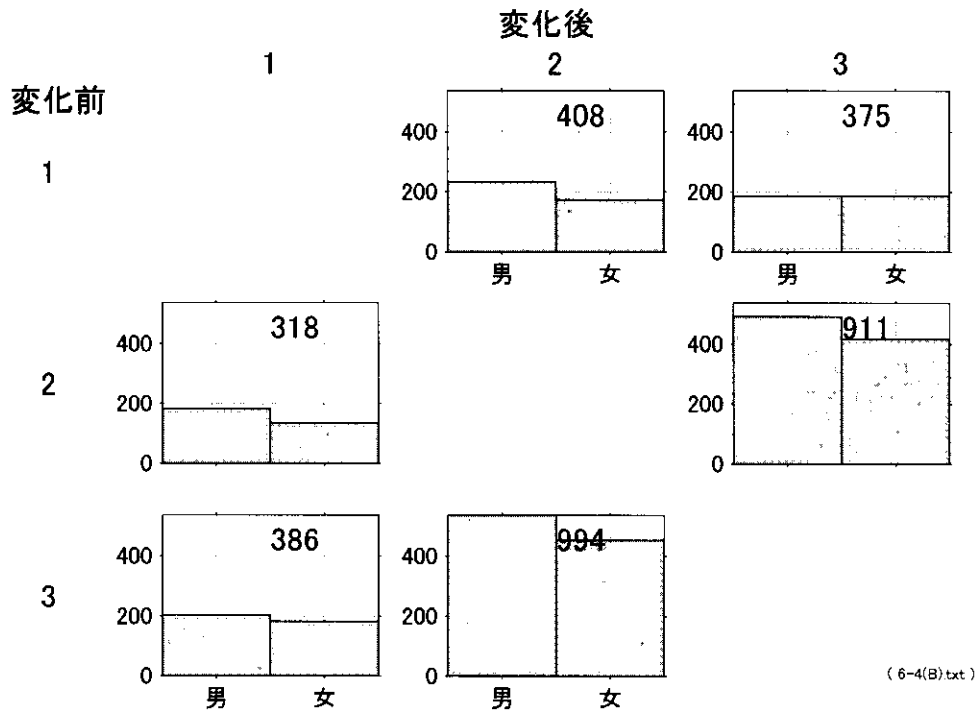
	変化後 1	2	3
変化前 1	267 名	408 回	375 回
2	318 回	243 名	911 回
3	386 回	994 回	5872 名

対象症例数 = 8586 名
 不変症例数 = 6382 名
 変化症例数 = 2204 名

改善変化回数 = 1694 回
 増悪変化回数 = 1698 回

(6-4(A).txt)

図 6-4(A) 首振り・頭叩きなどの常同行動：全体



(6-4(B).txt)

図 6-4(B) 首振り・頭叩きなどの常同行動：性別

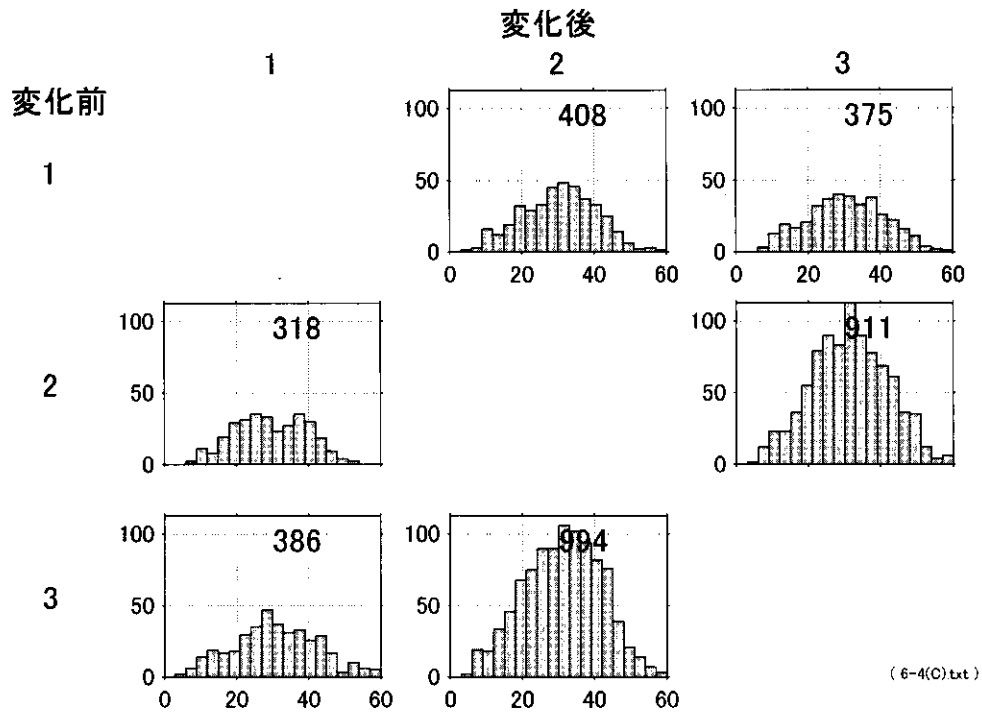


図 6-4(C) 首振り・頭叩きなどの常同行動：年齢（歳）

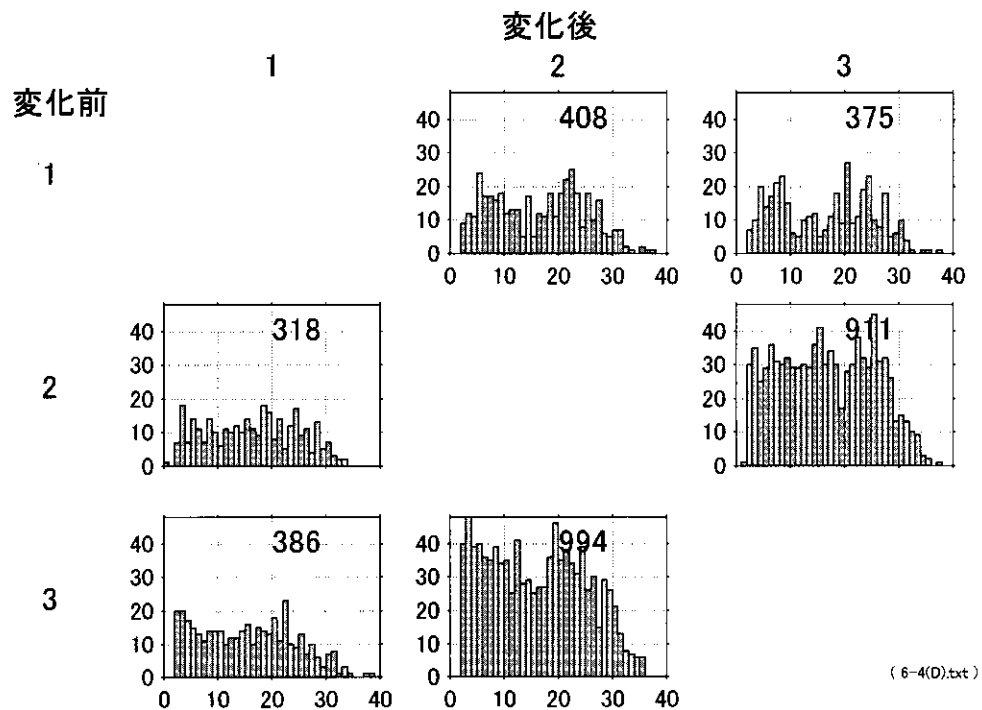


図 6-4(D) 首振り・頭叩きなどの常同行動：変化発生までの入所期間（年）

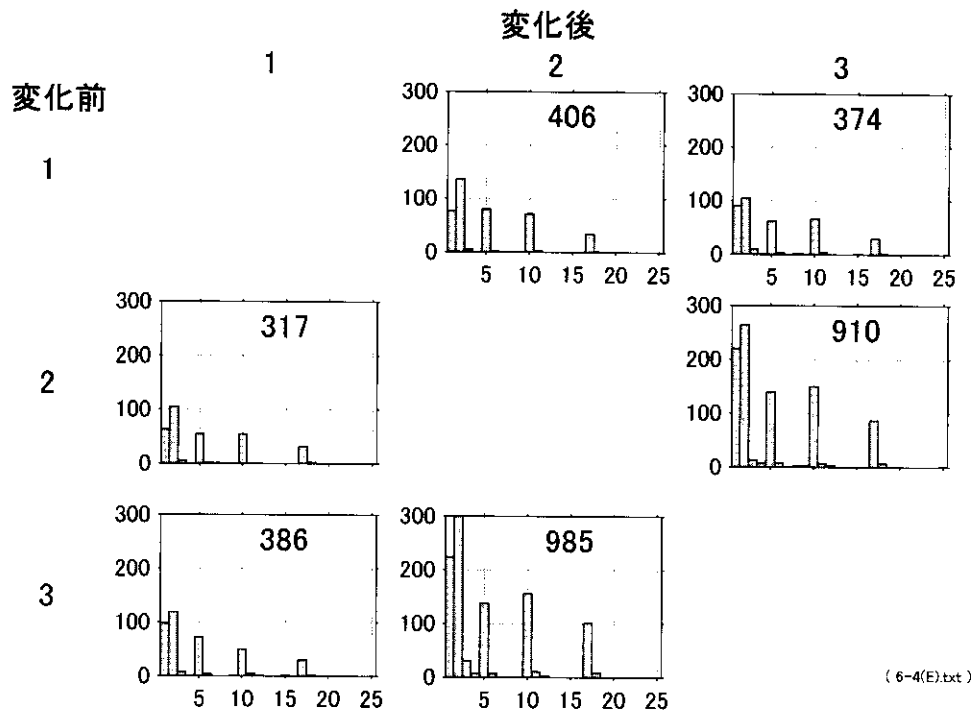


図 6 - 4(E) 首振り・頭叩きなどの常同行動：大島の分類

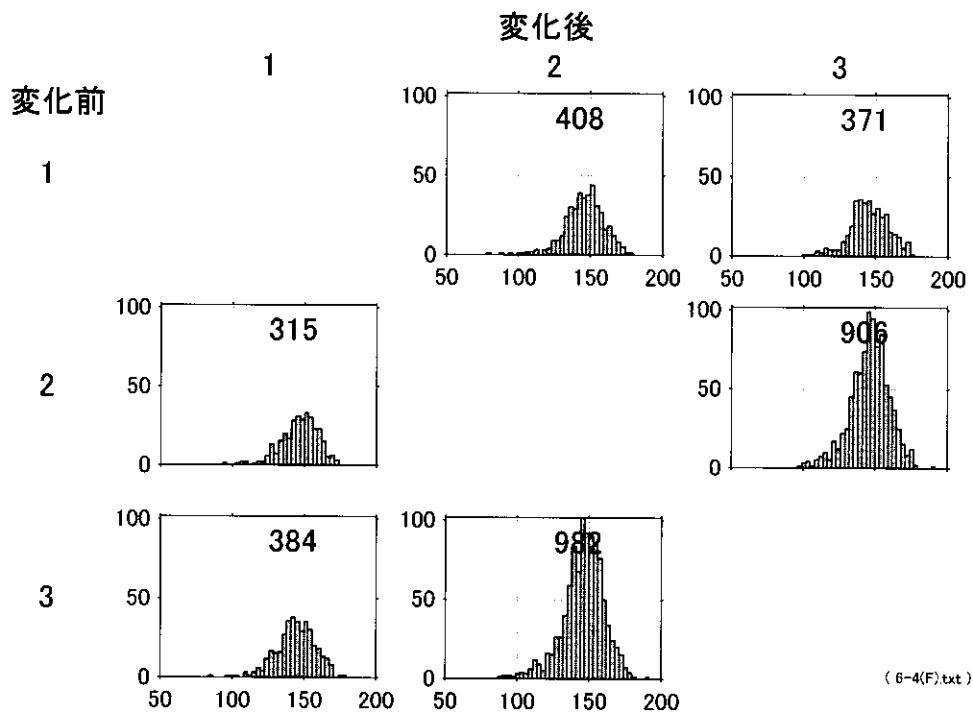


図 6 - 4(F) 首振り・頭叩きなどの常同行動：身長 (cm)

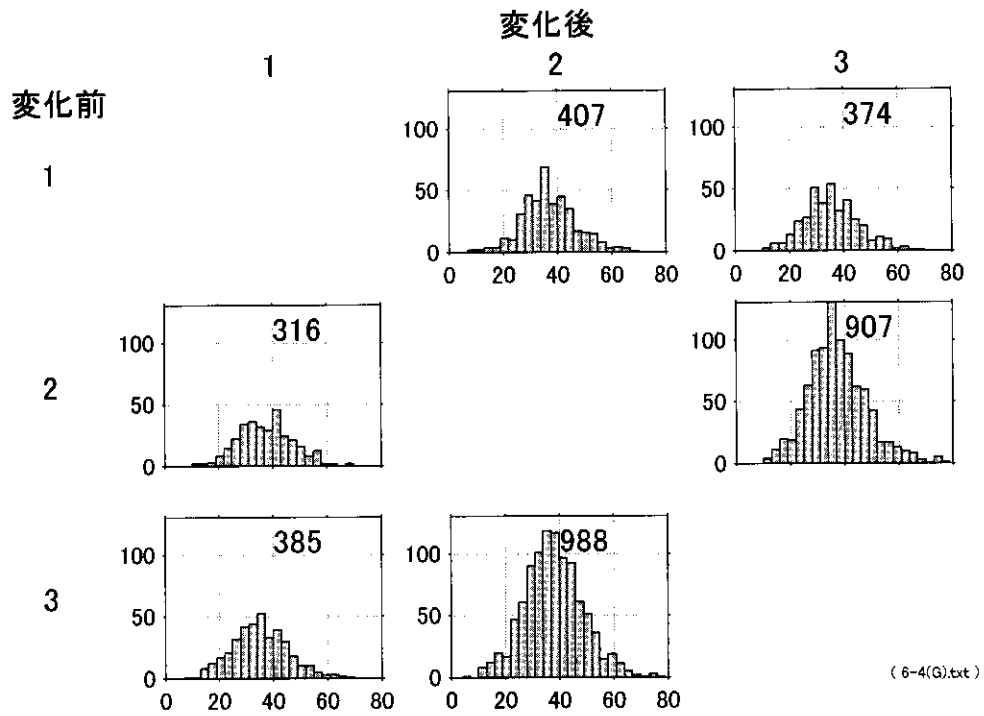


図 6 - 4(G) 首振り・頭叩きなどの常同行動：体重 (kg)

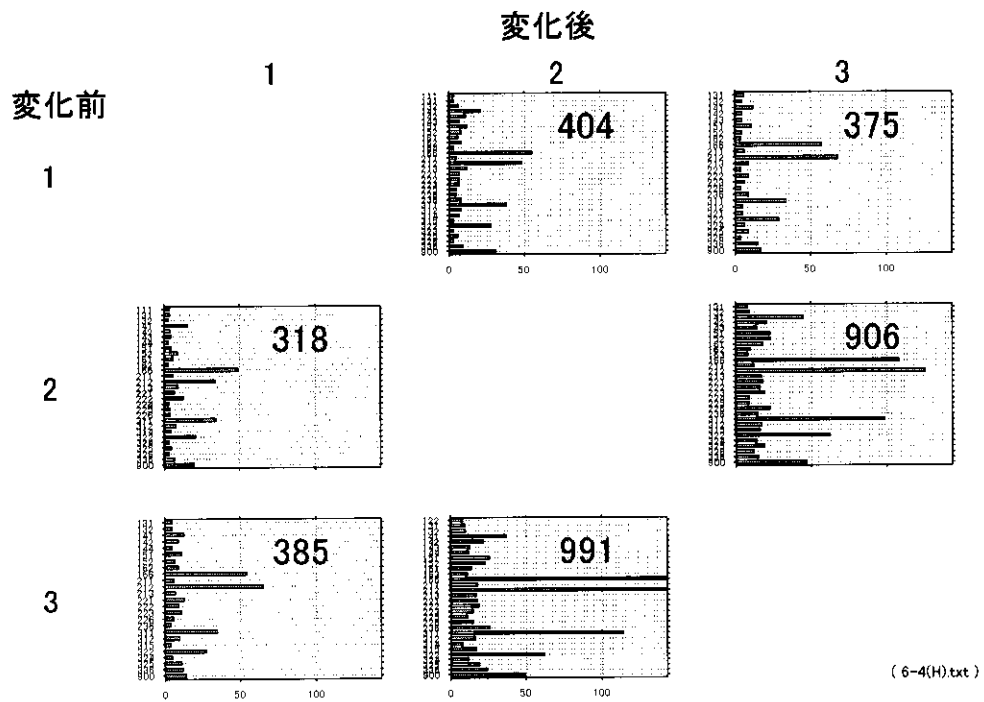


図 6 - 4(H) 首振り・頭叩きなどの常同行動：主要病因

6. 5. 便こね

■ 改訂版 ■

1	日常的にある
2	時々ある
3	なし

<図 6-5 (A)～(H)>

全体：対象症例数 8590 名の中で不変群 7696 名を除いた，894 名（10.4%）に変化がみられた。改善は 714 回，増悪は 616 回発生し，改善は増悪に比べて多かった（改善/増悪：15.9%）。また，改善と増悪の和（1330 回）を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 1.49 回発生したということになる。改善が最も多くみられた水準は，2 群→3 群（636 回，改善回数の 89.1%）であった。一方，増悪に関しては，3 群→2 群（558 回，増悪回数の 90.6%）の変化が最も多くみられた。

性別：男性では何らかの変化が 745 回みられ，改善が 407 回（54.6%），増悪 338 回（45.4%）であった。女性では何らかの変化が 585 回みられ，改善が 307 回（52.5%），増悪 278 回（47.5%）であった。男性の方が若干改善の比率が高かった。

改善群，増悪群の比較で，年齢，入所期間，身長，体重との関係については格別の差を認めていない。

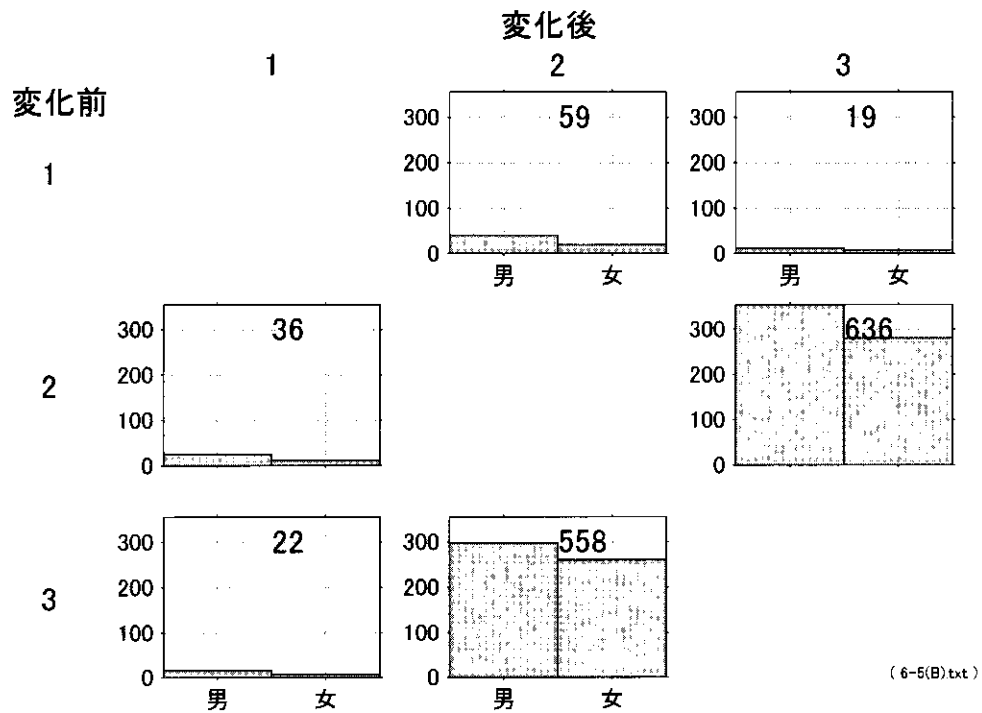
	変化後 1	2	3
変化前 1	8 名	59 回	19 回
2	36 回	145 名	636 回
3	22 回	558 回	7543 名

対象症例数 = 8590 名
 不変症例数 = 7696 名
 変化症例数 = 894 名

改善変化回数 = 714 回
 増悪変化回数 = 616 回

(6-5(A).txt)

図 6-5(A) 便こね：全体



(6-5(B).txt)

図 6-5(B) 便こね：性別

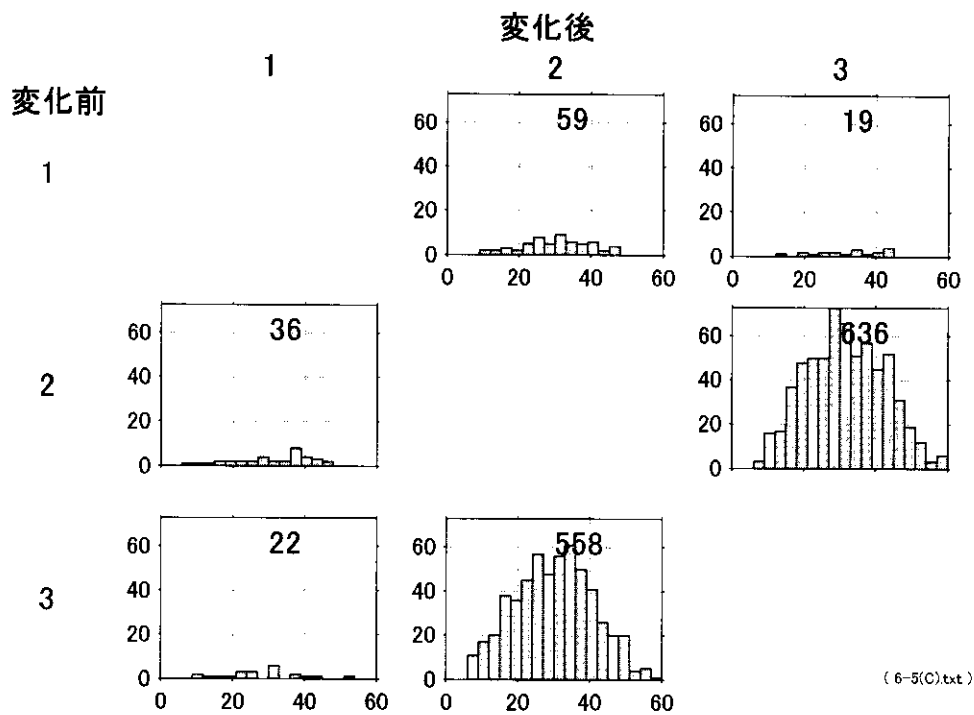


図 6 - 5(C) 便こね : 年齢 (歳)

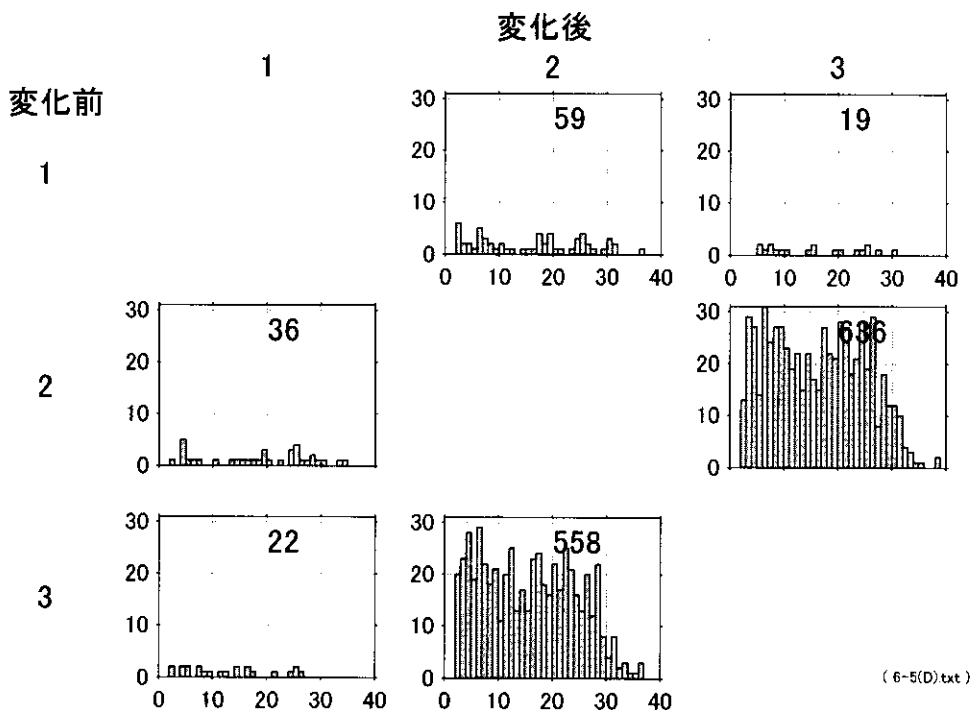


図 6 - 5(D) 便こね : 変化発生までの入所期間 (年)

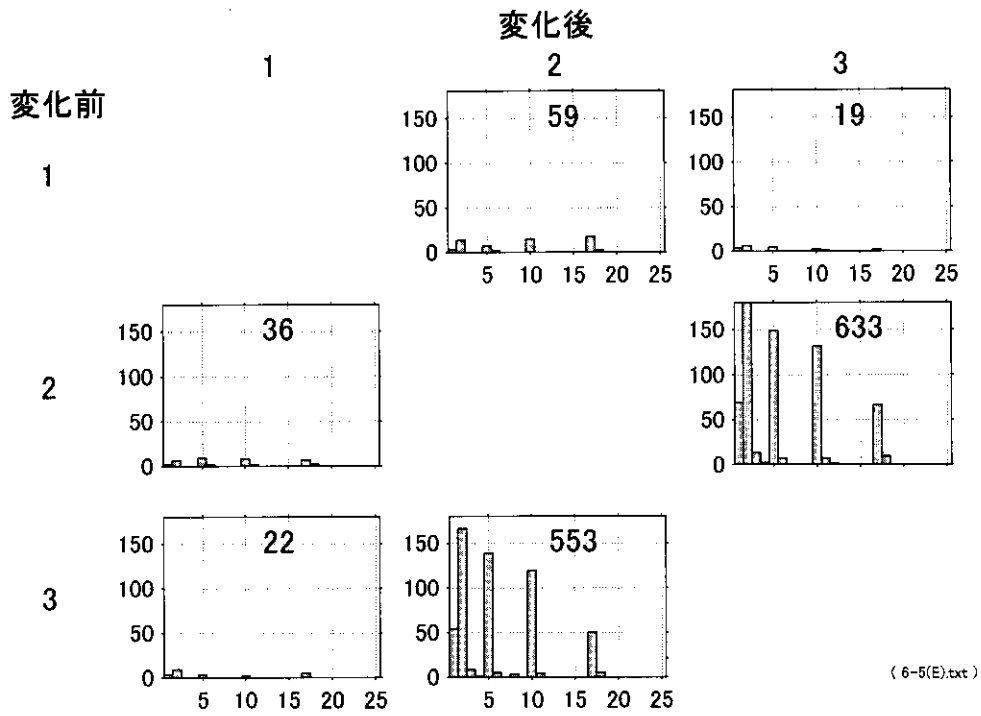


図 6 - 5(E) 便こね : 大島の分類

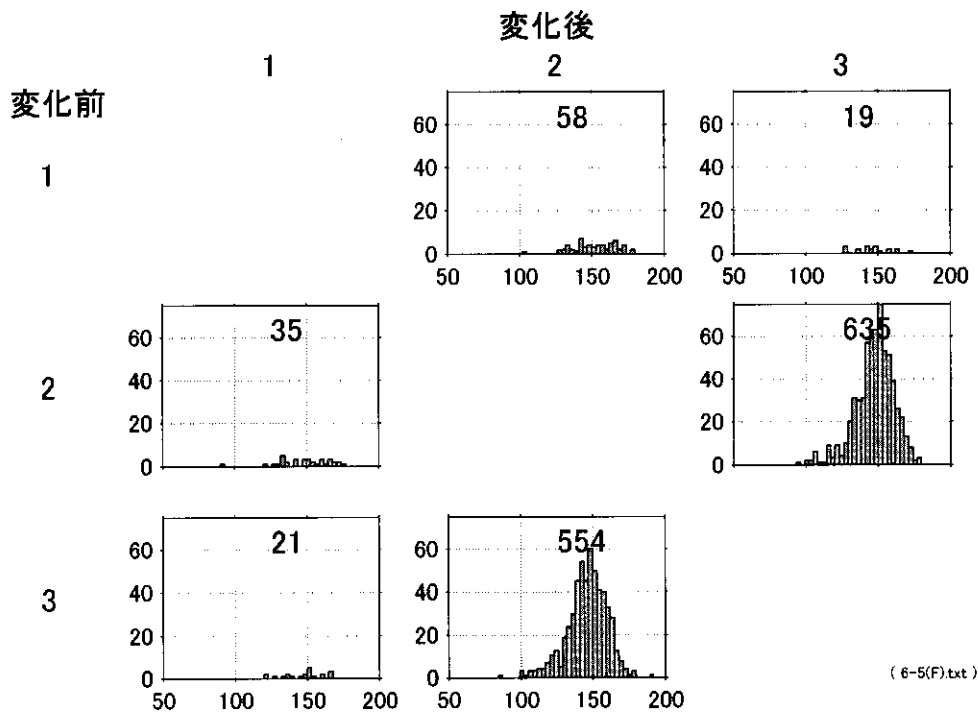


図 6 - 5(F) 便こね : 身長 (cm)

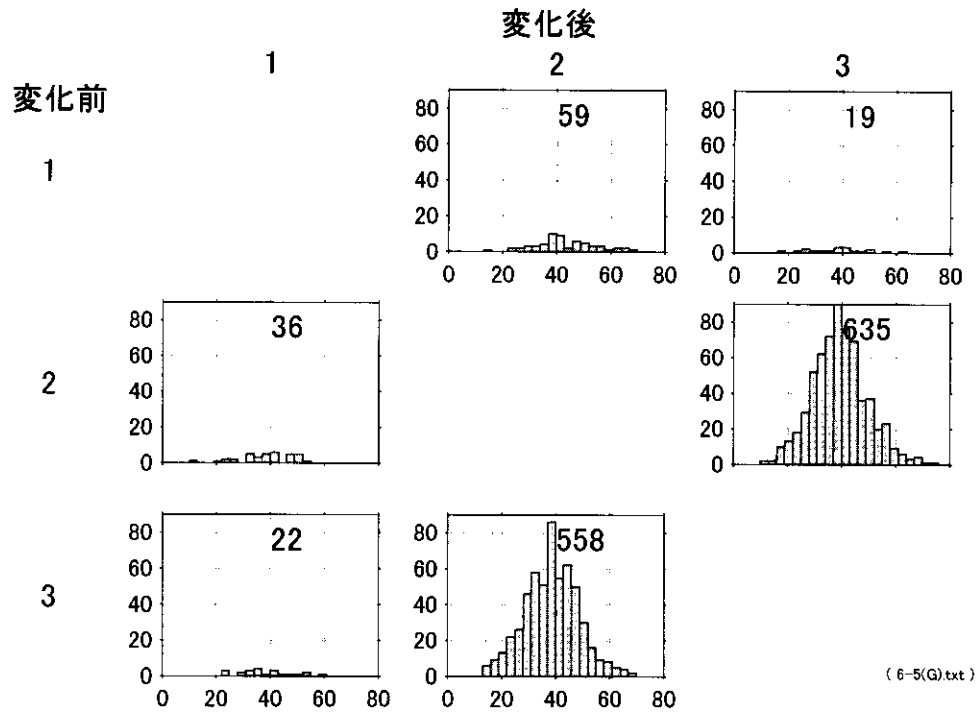


図 6-5(G) 便こね：体重 (kg)

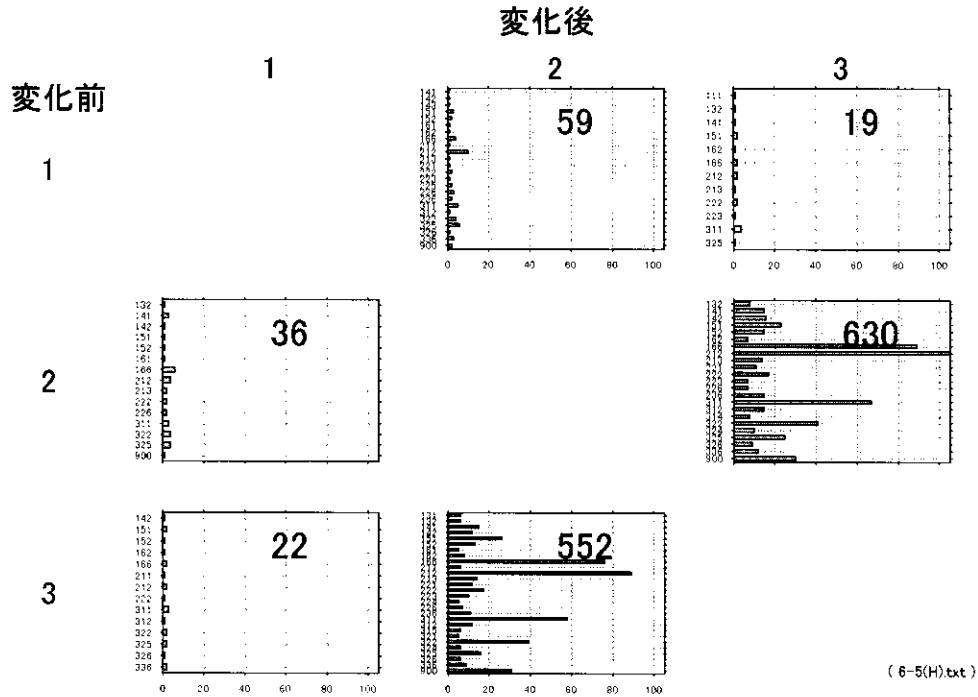


図 6-5(H) 便こね：主要病因

6. 6. 異食

■ 改訂版 ■

1	日常的にある
2	時々ある
3	なし

<図 6-6 (A)～(H)>

全体：対象症例数 8591 名の中で不変群 7712 名を除いた，879 名（10.2%）に変化がみられた。改善は 729 回，増悪は 621 回発生し，改善は増悪に比べて多かった（改善/増悪：17.4%）。また，改善と増悪の和（1350 回）を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 1.54 回発生したということになる。改善が最も多くみられた水準は，2 群→3 群（487 回，改善回数の 66.8%）であった。一方，増悪に関しては，3 群→2 群（446 回，増悪回数の 71.8%）の変化が最も多くみられた。

性別：男性では何らかの変化が 732 回みられ，改善が 389 回（53.1%），増悪 343 回（46.9%）であった。女性では何らかの変化が 618 回みられ，改善が 340 回（55.0%），増悪 278 回（45.0%）であった。男女間で顕著な差は認めていない。

改善群と増悪群の比較で，年齢，入所期間，大島の分類，身長，体重との間に差を認めていない。

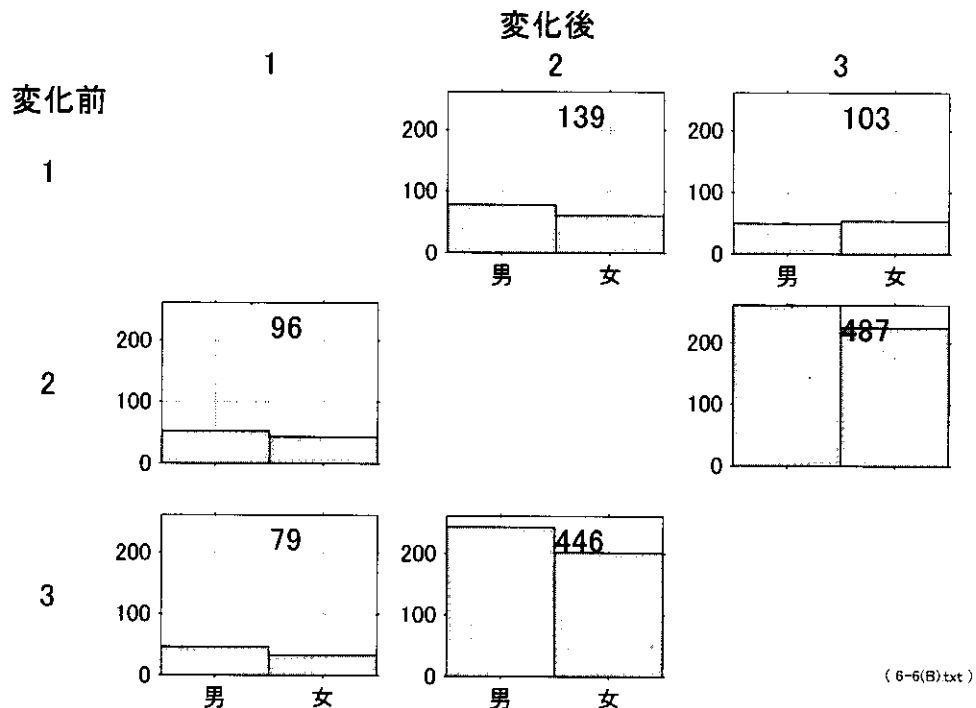
	变化後 1	2	3
变化前 1	61 名	139 回	103 回
2	96 回	125 名	487 回
3	79 回	446 回	7526 名

対象症例数 = 8591 名
 不変症例数 = 7712 名
 变化症例数 = 879 名

改善变化回数 = 729 回
 増悪变化回数 = 621 回

(6-6(A).txt)

図 6 - 6(A) 異食 : 全体



(6-6(B).txt)

図 6 - 6(B) 異食 : 性別

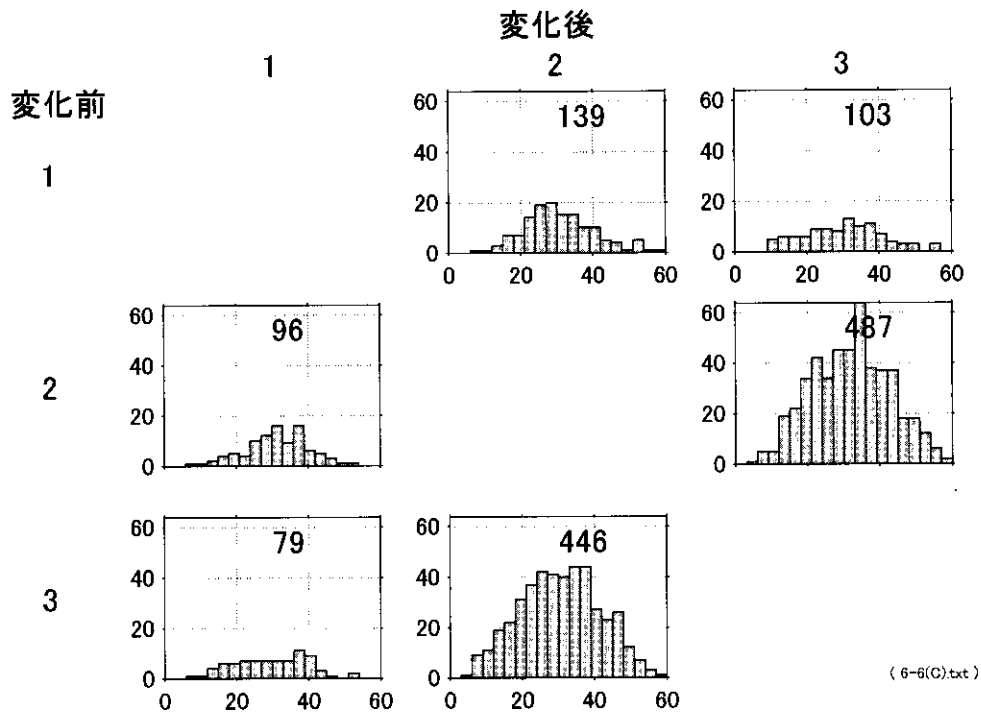


図 6 - 6(C) 異食：年齢（歳）

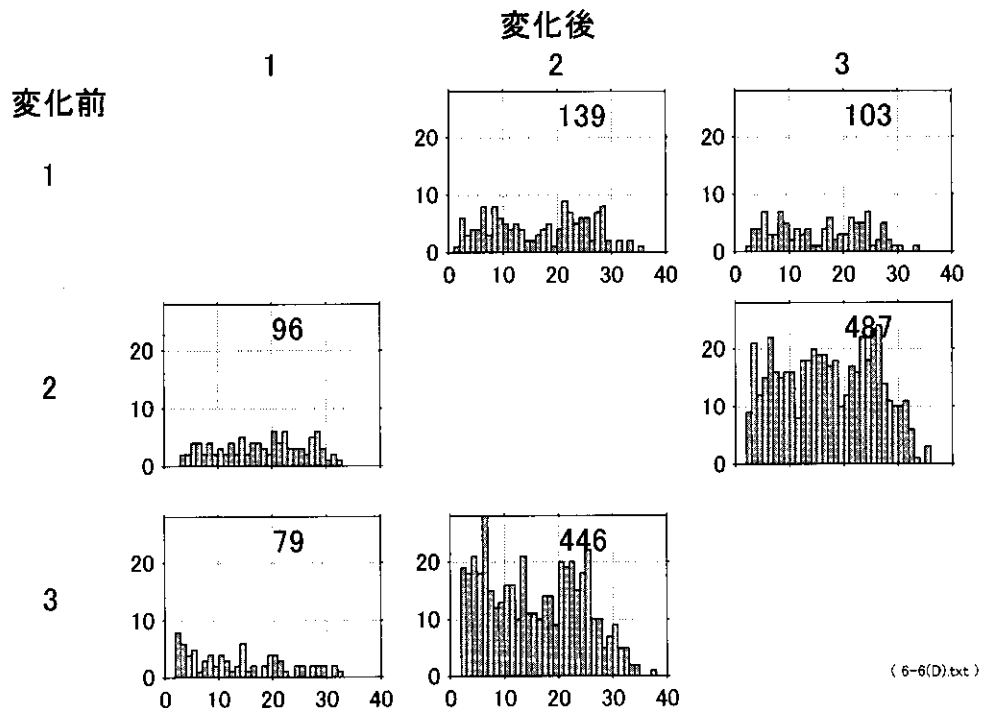


図 6 - 6(D) 異食：変化発生までの入所期間（年）

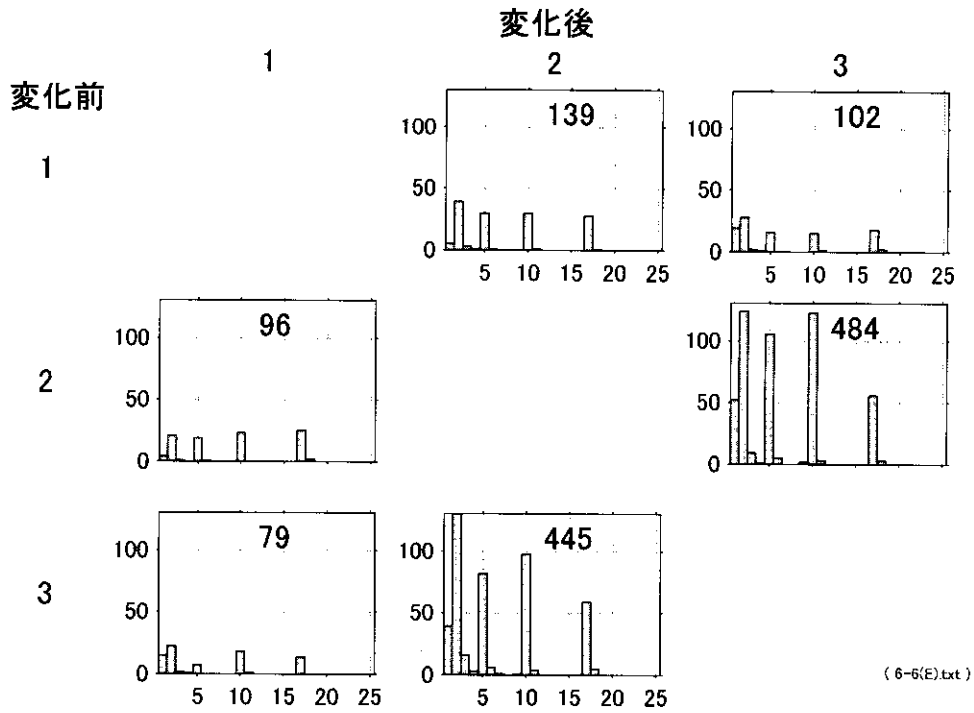


図 6 - 6(E) 異食：大島の分類

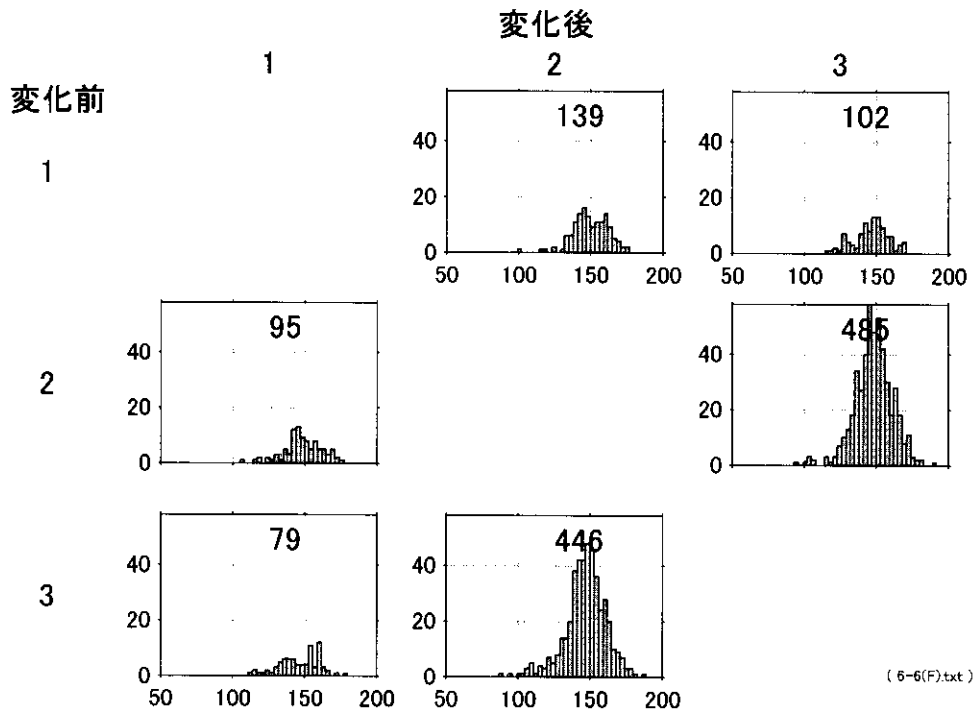


図 6 - 6(F) 異食：身長 (cm)

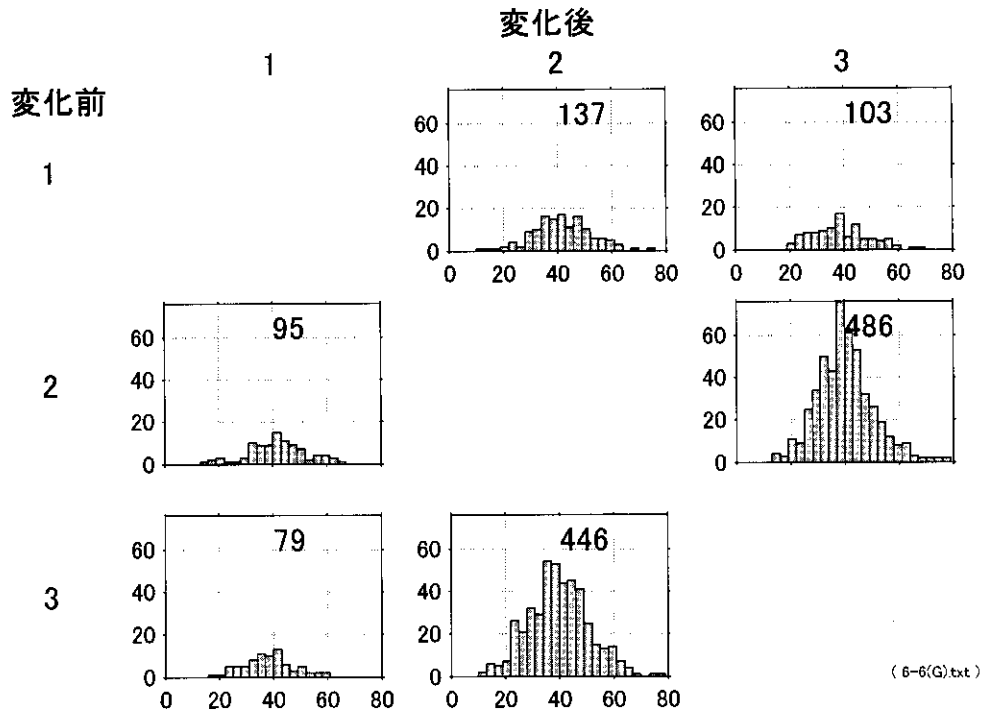


図 6 - 6(G) 異食：体重 (kg)

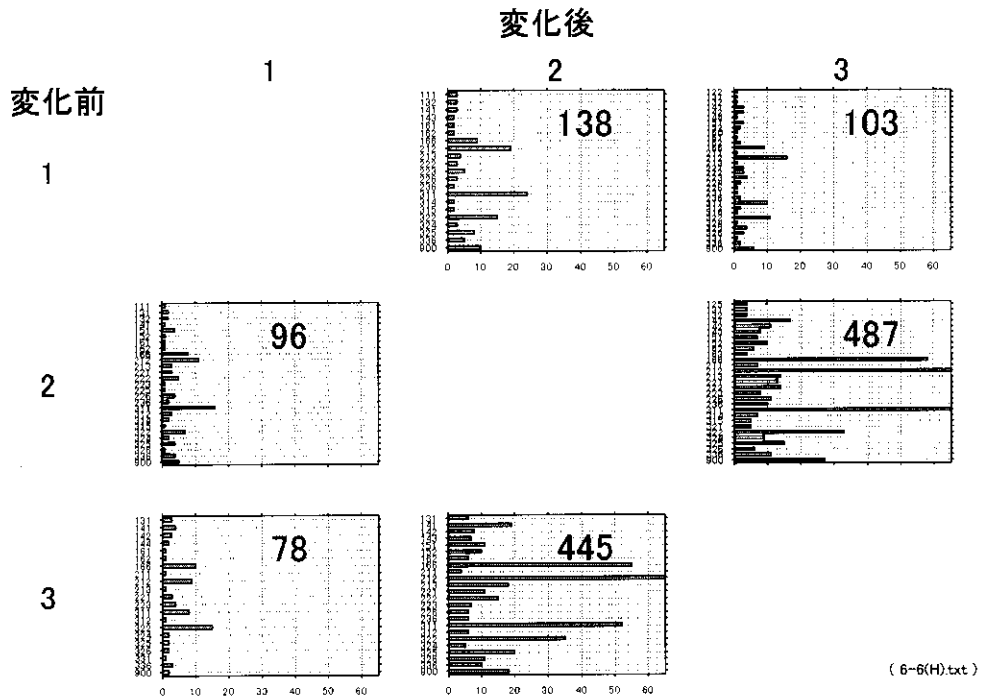


図 6 - 6(H) 異食：主要病因

6. 7. その他

■ 改訂版 ■

1	日常的にある
2	時々ある
3	なし

<図 6-7 (A)～(H)>

全体：対象症例数 8067 名の中で不変群 6643 名を除いた，1424 名（17.7%）に変化がみられた。改善は 1101 回，増悪は 1115 回発生し，改善と増悪は同等であった（改善/増悪：-1.3%）。また，改善と増悪の和（2216 回）を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 1.56 回発生したということになる。改善が最も多くみられた水準は，1 群→3 群（580 回，改善回数の 52.7%）であった。一方，増悪に関しては，3 群→1 群（618 回，増悪回数の 55.4%）の変化が最も多くみられた。

性別：男性では何らかの変化が 1231 回みられ，改善が 581 回（47.2%），増悪 650 回（52.8%）であった。女性では何らかの変化が 985 回みられ，改善が 520 回（52.8%），増悪 465 回（47.2%）であった。女性の方が若干改善の比率が高かった。

■まとめ

異常習慣の項目ごとに，対象症例数に対する変化症例数の割合を比べると，

1. 指しゃぶり，髪抜き，耳いじりなど（27.0%）
4. 首振り，頭叩きでの異常行動（25.7%）
3. 自傷（21.0%）
7. その他（17.7%）
2. オナニー（15.6%）
5. 便こね（10.4%）
6. 異食（10.2%）

の順であった。1. 指しゃぶり等，4. 首振り等，そして 3. 自傷は，成長・発達や療育の影響を受ける可能性が相対的に高いのに対し，5. 便こねや 6. 異食はそれが低いことを反映しているものと理解される。

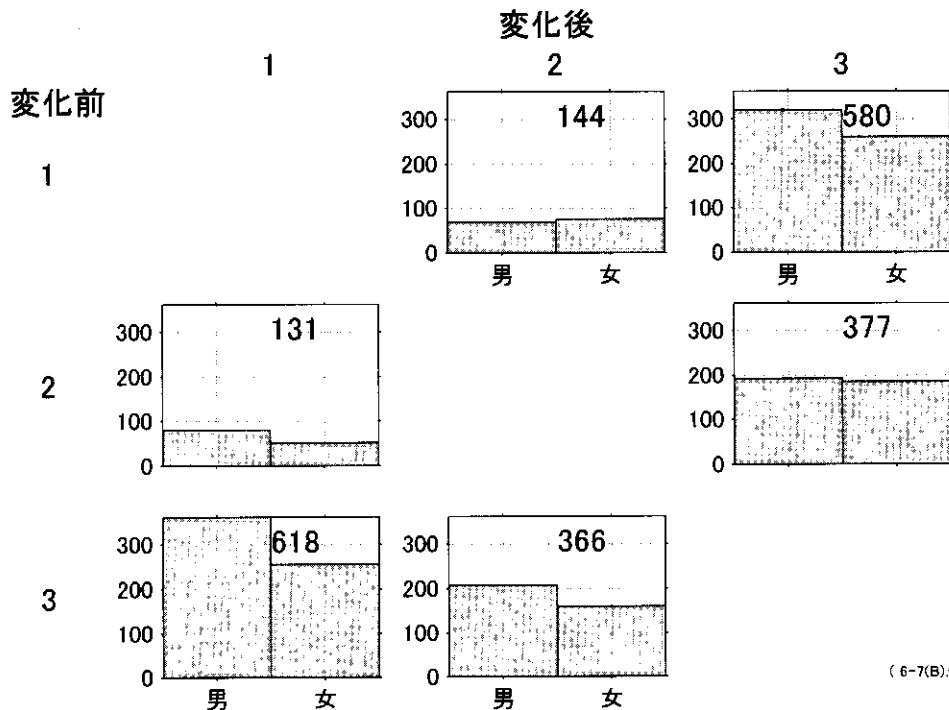
	変化後 1	2	3
変化前 1	126 名	144 回	580 回
2	131 回	29 名	377 回
3	618 回	366 回	6488 名

対象症例数 = 8067 名
 不変症例数 = 6643 名
 変化症例数 = 1424 名

改善変化回数 = 1101 回
 増悪変化回数 = 1115 回

(6-7(A).txt)

図 6-7(A) その他：全体



(6-7(B).txt)

図 6-7(B) その他：性別

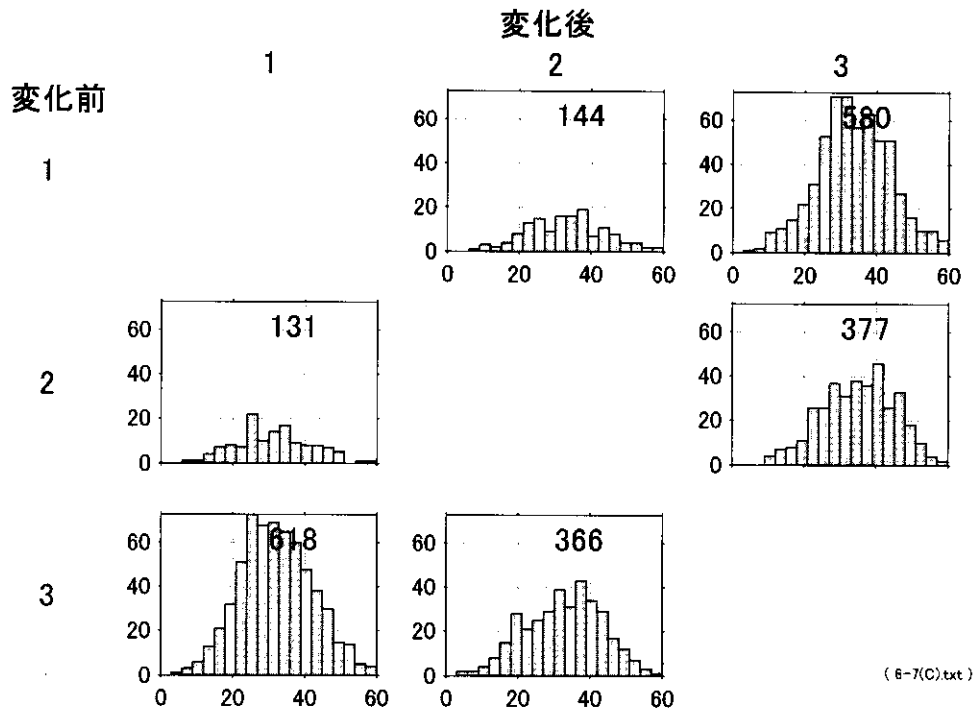


図 6-7(C) その他：年齢 (歳)

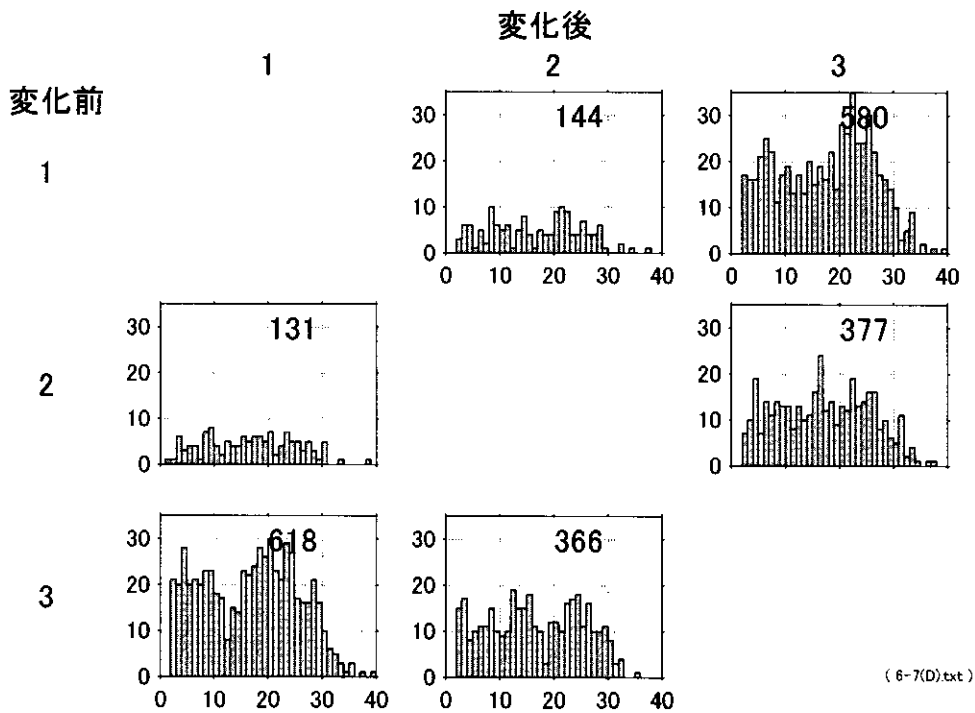


図 6-7(D) その他：変化発生までの入所期間 (年)